

「恩は返すもの、恨みは晴らすもの」。どちらにも時効はない。なぜボクシングを題材にしたのか、詳しくは忘れた。石原裕次郎の「勝利者」や赤木圭一郎の映画がイメージにあったのかもしれない。中学や高校時代に見ていた日活映画である。それと、劇団員で俳優の赤穂善計の体つきがボクサーを演じるにはぴったりだったこともある。そのころ、善計は空間演技の主演を演じ続けていた。わたしは劇団員に6カ月もの間、ボクシン

グジムに通うことを強要した。面白いエピソードがある。時折、わたしもボクシングジムへ見学にいった。ジムのトレーナーが劇団員の一人一人を指さして「あの人はいい役者でしょう」「あの人は不器用なはずですよ」といった。そのどれもこれもが

かない。そう考えた。渋い演技をしたつもりだったが、評判は悪かった。知り合いの観客が「恥ずかしいからやめてくれ」というのである。「なんで。劇団員はなにもいわなかったよ。ねっ、なんで。なんでなのよ」「修羅場にて候」の稽古に入っ

時間の俳優は稽古場のあちこちで台詞合わせや動きの稽古をしている。わたしは善計に体重を10キ落とすことを命じた。善計の役も因縁のある相手とスパarringをするために減量をする役である。「恨みに時効はないからな」

生に出前のラーメンを食わせるシーンがある。この練習生は「月謝を払ってるんだから、殴られなくてもチャンピオンになる方法を教えてくれてもいいじゃないですか」という若者である。「ますスープだ」「そこで麺だ」といった台詞がある。

恨みに時効はない

「人はやったことは忘れても、やられたことは覚えてるっすよ」。正式の試合ではない。たかがスパarringに、過去の因縁からボクサー生命を懸けて死闘する2人。ここで詳しく粗筋を書く余裕はない。ただ、減量なり結婚した例もある。いろいろある。(松浦市出身)

ぴったりとあたっていたのである。驚いた。

た。稽古場には壮絶な雰囲気が漂っていた。稽古は午後1時から始まり、夕方5時には終わる。稽古場での演出の集中力も4時間か限度である。本番が近くなると、朝10時から夜の7時くらいまでの稽古になる。食事タイムはない。休憩は取るが、休憩

減量しているパンツ1枚の善計が、そろりそろりと計量器に上がる。ぴたり、目盛りはぎりぎり止まる。「これでハンデ

なしの40ステージ、毎回ラーメンを食った若い俳優は、すっかりラーメン嫌いになった。逆に、毎回ラブシーンを続けた男優と女優が、ほんとに好き合う仲になり結婚した例もある。いろいろある。(松浦市出身)

た。稽古場には壮絶な雰囲気が漂っていた。稽古は午後1時から始まり、夕方5時には終わる。稽古場での演出の集中力も4時間か限度である。本番が近くなると、朝10時から夜の7時くらいまでの稽古になる。食事タイムはない。休憩は取るが、休憩

いまでの稽古になる。食事タイムはない。休憩は取るが、休憩

を演じ続けていた。わたしは劇団員に6カ月もの間、ボクシン

を演じ続けていた。わたしは劇団員に6カ月もの間、ボクシン

を演じ続けていた。わたしは劇団員に6カ月もの間、ボクシン